

中 学 校

平 成 5 年 度

教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

外 国 語
(英 語)

東 京 都 教 育 委 員 会

平成5年度

教育研究員名簿（外国語）

分科会名	区市町村名	学 校 名	氏 名
第1分科会	江 東 区	第三亀戸中学校	○ 鈴 木 誠
	杉 並 区	松ノ木中学校	□ 廣 澤 一 恵
	板 橋 区	高島第三中学校	小 島 容 子
	江戸川区	清新第一中学校	安 藤 次 郎
	立 川 市	立川第五中学校	佐 藤 文 彦
	青 梅 市	霞 台 中 学 校	大 森 佳 代 子
第2分科会	文 京 区	第 九 中 学 校	月 川 美 津 子
	大 田 区	田園調布中学校	福 井 正 仁
	世田谷区	奥 沢 中 学 校	関 実
	足 立 区	第 三 中 学 校	三 浦 邦 彦
	日 野 市	日野第一中学校	沢 田 陽 子
	稲 城 市	稲城第三中学校	中 川 学
第3分科会	北 区	浮 間 中 学 校	永 嶋 昌 博
	練 馬 区	谷 原 中 学 校	◎ 山 崎 聡
	武蔵野市	第 三 中 学 校	原 島 明 彦
	保 谷 市	青 嵐 中 学 校	鈴 木 俊 春

◎ 世話人 ○ 副世話人 □ 記録

担当 教育庁指導部中学校教育指導課指導主事 山 本 新 治

目 次

I 研究主題及び研究主題設定の理由	2
II 研究経過	3
III 研究内容	4
第1分科会	
1 小主題設定の理由「研究の仮説とねらい」	4
2 研究内容	5
(1) 音声の持つ基本的特質	5
(2) ワークシート	6
(3) 指導事例	8
3 成果と課題	10
第2分科会	
1 小主題設定の理由「研究の仮説とねらい」	11
2 研究内容	12
(1) 話題の調査	12
(2) 「話すこと」の活動調査	13
(3) ペア・ワークの課題と改善点	14
(4) ペア・ワークの指導実践事例	15
3 成果と課題	17
第3分科会	
1 小主題設定の理由「研究の仮説とねらい」	18
2 研究内容	19
(1) ビデオ教材での学習	19
(2) LL機器活用の学習	19
(3) パソコン活用の学習	21
(4) 指導実践事例	21
3 成果と課題	23
IV まとめと今後の課題	24

I 研究主題設定の理由

中学校におけるこの度の学習指導要領の改訂において、外国語（英語）科の目標として、次の4つが示された。すなわち、(1)外国語が分かり、使える、(2)その能力を積極的に使い、コミュニケーションを図ろうとする、(3)言語や文化にたいする関心を深める、(4)国際理解の基礎を培う、である。特に、(1)については、「聞くこと」と「話すこと」の言語活動が分離されたことにより、質的、量的にも多くの言語活動が可能になったこと、また、(2)では、コミュニケーション能力はこれを行おうとする積極的な意欲や態度によって一層育成されること、が示され、指導上の一層の創意工夫が期待されることとなった。

ことばの学習では、言語情報そのものが音声情報中心であるため、「音声から文字へ」の順序を重視することが大切であり、音声を中心としながら文字の指導とからみあわせていくなど、言葉の習得にかかわるプロセスを重視した音声指導、特に入門期での音声重視の指導に一層の創意工夫が求められている。また、生徒が活動しやすい場面や学習形態の工夫を図る、発話を促す雰囲気をつくる、対話を発展させるような言語活動を工夫するなど、英語の学習に興味・関心を示すよう学習場面でのさまざまな工夫・改善が重要である。そこでこのような学習課題の解決に向けて、上記の研究主題を設定し、研究を進めることとした。

本研究を進めるに当たり、下記のように三分科会に別れ、それぞれの仮説を設定し、それらを実証するために授業実践を繰り返して行ってきた。

第1分科会：生徒が英語の音声のもつ基本的な特質を理解すれば、Listeningの力が高まり、その結果、学習に対する興味・関心が深まり、意欲的にコミュニケーションを図るであろう。

第2分科会：興味・関心をもって話す場面の設定を工夫すれば、「話すこと」の活動が充実し、コミュニケーションをより積極的におこなう意欲が育成されるであろう。

第3分科会：教育機器を効果的に活用すれば、コミュニケーションに対する興味・関心が高まるであろう。

Ⅱ 研究経過

16名の研究員は三分科会に分かれ、各自の研究活動と実践授業等を通して、研究を深めることができた。

- | | | |
|------------|--|--------|
| 総 会 | －都立教育研究所 | 14：30～ |
| (4月13日) | 研究員委嘱 事業説明 年間予定 自己紹介 世話人等選出 | |
| 第1回月例会 | －大田区立田園調布中学校 | 14：30～ |
| (5月6日) | 研究主題・内容決定 研究の進め方の検討 三つの分科会の決定 | |
| 第2回月例会 | －杉並区立松ノ木中学校 | 13：25～ |
| (6月11日) | 研究授業(廣澤一恵教諭) 研究協議 仮説の検討 研究構想 実態調査 | |
| 第3回月例会 | －江東区立第三亀戸中学校 | 13：30～ |
| (6月25日) | 研究授業(鈴木誠教諭) 研究授業・研究内容具体化・先行研究・基礎研究 | |
| 第4回月例会 | －板橋区立高島第三中学校 | 10：00～ |
| (7月26日) | 研究内容・方法の具体化 指導計画の作成 指導案の検討(1) | |
| 御岳研究集会 | －青梅市御岳山宿坊 | |
| (8月20～22日) | 問題点の整理・検討 研究内容・方法・仮説の再検討 指導案の検討(2)
報告書プロット作成 執筆分担 | |
| 第5回月例会 | －武蔵野市立第三中学校 | 12：50 |
| (9月14日) | 実証授業(原島明彦教諭) 研究内容の実践・検証 報告書プロット作成
執筆分担 | |
| 第6回月例会 | －青梅市立霞台中学校 | 13：10～ |
| (10月4日) | 実証授業(大森佳代子教諭) 研究内容の実践・検証 報告書執筆内容検討 | |
| 第7回月例会 | －練馬区立谷原中学校 | 13：30～ |
| (10月28日) | 実証授業(山崎聡教諭) 研究内容の実践・検証 原稿検討 | |
| 第8回月例会 | －保谷市立青嵐中学校 | 14：00～ |
| (11月22日) | 原稿提出 補助資料の準備 発表会の準備(1) | |
| 第9回月例会 | －文京区立第九中学校 | 14：00～ |
| (1月20日) | 発表会準備 指導案検討 発表会の準備(2) 補助資料の検討 係分担決定 | |
| 研究発表会 | －北区立浮間中学校 | 13：30～ |
| (2月4日) | 公開授業(永嶋昌博教諭) 研究発表 研究協議 反省会 | |

Ⅲ 研究内容

第1分科会

1 小主題設定の理由「研究の仮説とねらい」

第1分科会では、研究主題『意欲的にコミュニケーションを図るための指導の工夫』を受け、言語活動の4領域の一つ「聞くこと」に研究の焦点を絞った。分科会テーマを「意欲的にコミュニケーションを図るための基礎となる Listening の指導の工夫」とし、「生徒が英語の音声のもつ基本的な特質を理解すれば Listening の力が高まり、その結果、学習に対する興味・関心が深まり、意欲的にコミュニケーションを図るであろう。」という仮説を立てた。

私たちは、コミュニケーションの第一歩は「相手の言うことがわかること」であると考え、どのようにしたら大切な情報が聞き取れるかということ、いわば「聞き取りのこつ」に注目した。

そこでまず聞き取るときの障害になっているものが何であるかについて考えた。たとえば、When he was a young boy,....を一語ずつ発音すれば [(h)wen hi: waz ə jʌŋ bɔi] になるが、native speakerが普通に言えば [(h)wen hi:] は [weni:], [waz ə] は [wazə], [jʌŋ bɔi] は [jʌn bɔi] となり、Can I use that table? [kæn ai ju:z ðæt teibl] では、[kæn ai] は [kanai], [ðæt teibl] は [ðə teibl] となり、音の消失、連結が見られる。また、“table” は「テーブル (têburu=ローマ字表示)」ではなく [téibl] となり、これは、どんな子音字も母音を持っている(下線部)という日本語の音声の特質とは異なっている。これらが原因の一部となって、聞き取ることが困難になっていると考えられる。

したがって、英語の学習を始める中学生にとって、学習初期段階から正しい英語の発音を繰り返し聞き、発音することによって、英語の音声の持つ特質を理解することが重要であると考え、その指導方法の研究をすすめることとした。

分科会テーマの基礎となる、仮説の基本的な特質とは『学習指導要領、別表1 言語材料ア 音声 (ア)現代の標準的な発音 (イ)語のアクセント (ウ)文の基本的な音調 (エ)文における基本的な区切り (オ)文における基本的な強勢』と関わっている。

基本的な特質として、次の4点について、研究をすすめた。

1. カタカナ英語 (日本語に取り入れられアクセントなどが変わってきているもの)
2. 音の変化:(1)音の連結 (2)音の同化 (3)音の消失
3. 区別しにくい発音
4. 文における基本的な強勢

2 研究内容

(1) 音声の持つ基本的特質

以下の表は、英語の音声の持つ基本的特質として挙げた4点と、その指導例をまとめたものである。

基本的特質	・指導内容 []内は発音記号	・指導方法 (●留意点)
1 カタカナ英語	<ul style="list-style-type: none"> ・地名・人名で原音と異なるもの: Asia/McDonald ・アクセントが異なるもの: banana/hotel ・音の一部が異なるもの: All right/radio ・他言語・誤使用: アルバイト (part time job) /パン (bread) /ミシン (sewing machine) ・和製英語: シャーペン (mechanical pencil) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地名については世界地図などを使い、発音された地名をさがすようなゲーム形式で行う。 ・その他については、絵やカタカナを提示しておき、発音されたものを選ぶような形式が考えられる。 (●日本語にない音や発音しにくいものに特に注意をして指導する。)
2 音の変化 (7)音の連結 (4)音の同化 (9)音の消失	<ul style="list-style-type: none"> ・[r]+母音: here and there/far away ・語尾の子音+語頭の母音: look at/in a day/at a time/a lot of/not at all ・[t]+[j]=[tʃ]: don' t you ・[z]+[s]の[z]の音: has studied ・[d]+[j]=[dʒ]: Did you ・[s]+[j]=[ʃ]: this year ・[z]+[j]=[ʒ]: Does your mother ・語中の [ə] は消えることが多い: camera [kæmrə] ・語尾の [t] や [d] は消えることが多い: I don' t know. [ai dɒnnəu] handbag [hændbæg] 	<ul style="list-style-type: none"> ① So cheer up, Mika. を2~3度聞かせ、どう聞こえたか質問する。 ② 「そちら、みか」と聞こえる原因を説明する。 ③ 左記2(7)(4)(9)について説明する。 ④ 語、語句、短文などを印刷したプリントを配布し、英語を聞かせ、その英文に、・連結(7)の場合(∧)、・同化(4)の場合(∨)、・消失(9)の場合(×)をマークさせる。 (●代わりに歌を聞かせてもよい) ⑤ 答を確認し口頭練習させる。 ⑥ 発展練習として ・ a lot of friends ・ run about ・ I like it. など を書き取らせる。
3 区別しにくい発音	<ul style="list-style-type: none"> ・ listeningのときに区別しにくい発音についての学習をし練習を重ねる。 ・ [l]: [r] light:right (write) ・ [m]: [n] them:then/mom:man ・ [b]: [v] best:vest/boat:vote ・ [θ]: [s] thing:sing/think:sink ・ [ʃ]: [s] she:sea (see)/ship:sip ・ [f]: [h] food:hood/folly:holly ・ その他 can:can' t/ear:year など <p>I <u>want</u> to help her. I <u>went</u> to help her.</p>	<ul style="list-style-type: none"> (●初期段階から、正しい英語の発音をしっかり身に付けさせる。) <Listening Test> ① 発音を聞いて、その alphabet を選ぶ。 ② 発音を聞いて、その単語を選ぶ。 ③ 発音を聞いて、その語句を選ぶ。 ④ 発音を聞いて、その文を選ぶ。 (●①~④まで段階的に指導する。) (●natural speedで行う。) (●書く練習にも発展させられる。)

<p>4 文の基本的な強勢</p>	<p>・英語の文を構成するそれぞれの語の発音は同じ強さではない。</p> <p>1. 英語の文では、名詞、動詞、形容詞、副詞、指示代名詞など内容語と呼ばれるものは強く発音される。</p> <p>2. 弱形としてあげたもの、すなわち 冠詞、代名詞、be動詞、助動詞、前置詞、接続詞など機能語と呼ばれるものは弱く、短めにすばやく発音される。そして語の音も変わる場合がある。</p> <p>your [juər] ⇒ [jə] him [him] ⇒ [im] is [iz] ⇒ [(i)z/(i)s] have [hæv] ⇒ [əv] of [ɒv] ⇒ [ə] and [ænd] ⇒ [ən/n]</p>	<p>①弱型となる語にはどんなものがあるか説明する。</p> <p>②実際に英文を聞かせ、よく聞こえる語と聞こえない語をチェックさせる。 (●よく聞こえる語が内容語であることを説明する。)</p> <p>③内容語を意識させ、読ませる。</p> <p>④リスニングポイントを指示し、テープ等を聞かせ、聞き取れた単語を書かせる。</p>
-------------------	--	---

(2) ワークシート

英語の基本的特質を理解するためのワークシートを研究項目別に検討してみた。生徒はそれぞれを練習・習得していくことで、聞き取るためのコツをつかみ、コミュニケーションに対する興味・関心を深めることができると考えた。以下に例の一部を示す。

1 カタカナ英語について

カタカナ英語は本当の英語？ - 1

● ABCのうちどれが正しい英語の発音？

1. ゴリラ 2. ギター 3. ラジオ 4. アジア 5. ホテル

(ABC) (ABC) (ABC) (ABC) (ABC)

カタカナ英語は本当の英語？ - 2

(1) 日本で使われている外国の地名は、英語では何と発音するでしょう。先生の読む地名を地図でさがしてみましょう。

[国名] スイス、ドイツ、イタリア、
オランダ、ノルウェー、イギリス、
ルーマニア

(2) 次の都市名は英語では何と発音されるでしょう。

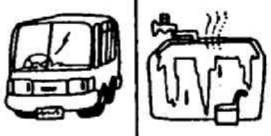

[都市名] パリ、ローマ、ウィーン



2 音の変化について：(ア) 連結 (イ) 同化 (ウ) 消失

自然な英語で歌おう	< First of May >	by Bec Gees	ア. 連結 [✓] イ. 同化 [✓] ウ. 消失 [×] の記号をつける
When I was small / And Christmas trees were tall / We used to love while others used to play / Don't ask me why / The time has passed us by / Someone else moved in from far away 以下省略			

3 区別しにくい発音について

WHICH IS WHICH? -1 (文字), -2 (絵), -3 (絵+単語)		
●先生の言う方に○をつけなさい。 1 G — J 2 B — V 3 Z — C () () () () () () 4 Z — G 5 D — B 6 N — M () () () () () ()	1  () ()	1  rice lice () ()

4 文における基本的な強勢について

ビデオで自然な英語にふれよう	< Beauty and the Beast >
1. 主人公の名前は。 2. 彼女は村人にどう思われていますか。(たくさんの言葉を聞き取りましょう。) 3. 彼女が本屋さんで借りた本は今度で読むのは何回目ですか。 4. 彼女が本を取られたとき言う言葉は? () () have my book, please? 5. 発明家の父が不思議なお城に入っていくときの言葉を聞き取ってみよう。 Father: Hello. Is () there? I don't mean to intrude. But I lost my () and.... I need a () to () for the night. Clock: Of course. You are welcome here. Father: () said that? Clock: () (). Father: Where?	

(3) 指導事例

題材 「ケニヤの日本人教師」

時間	学習事項	※	生徒の活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
1 (1)	1 挨拶		英語で友達と挨拶する。	2人の友達と挨拶するよう指示する。	リラックスした授業の雰囲気を作る。
10 (11)	2 準備 (1)基本会話 (2)歌	1 2 4 2 4	ペアで練習し友達と使う。 テープを聞いてどんな曲か推測する。	使う場面を設定し慣れさせる。 テープで聞き取らせ、聞き取った単語からどんな曲か推測させる。	楽しい雰囲気である。 楽しみながら集中して聞く。
3 (14)	3 前時の復習	4	文を聞き取りT-Fで答える。 I t ~ f o r ~ t o ~ .	文を口頭で指示し答えさせる。	身近なことや、関心のあること等を中心に聞く。
6 (20)	4 新出単語	1 2 3	宿題の作文を黒板に書く。 書かれた文を読み、使い方を理解する。	ノートを見て回る。 文が正確に書かれているかを評価する。	積極的に手をあげさせる。 文を作る単語を指示しておく。
8 (28)	5 本文の導入	2 4	絵とキー・ワードからJ O V Cと本文の内容について理解する。 リスニング・ポイントについて答える。	キー・ワードを与え、絵や地図を用いて説明する。 リスニング・ポイントを書いたワークシート(No. 1)を与える。	A L Tに、あらかじめテープ(★)に吹き込んでもらう。
10 (38)	6 基本文型 (1)聞き取り (2)確認 (3)口頭練習	4	文を聞いて、意味を推測する。 質問に答える。 文形を読み、意味を確認する。	文を口頭で指示する。 簡単な質問をする。 文型の表を提示する。	絵を使う。 よく知っている人物を選ぶ。
6 (44)	7 ペア練習	4	ワークシートを使いペア・ワークで友達にインタビューし、情報を交換する。 集めた情報を発表する。	ワークシート(No. 2)を与えてできるだけ早く情報を集めるようにする。 生徒の質問に答える。 発表を評価する。	ペア・ワークがうまくできない生徒の手助けをする。
4 (48)	8 本時の確認		説明を聞き質問に答える。	文型を確認する。	文型、意味の要点のみにとどめる。
2	9 挨拶		英語で挨拶する。	終了を告げ、挨拶する。	授業の評価をさせる。

註 ※ 英語の音声の持つ基本的特質との関わり
(1:カタカナ英語 2:音の変化 3:区別しにくい発音 4:文の基本的な強勢)

★ A L Tのテープ内容:

The Japanese Overseas Cooperation Volunteers, or the JOCV, is a group of young Japanese men and women who go to work in developing countries around the world. The JOCV began in 1965 and today works in Africa, Southeast Asia, South Asia and South America. It helps all developing countries to grow vegetables and to make useful things. The volunteers teach the children and want to make life better for them. The young Japanese volunteers are all between 20 and 35 years old. Their job is very important, to teach the people in developing countries to help themselves.

学習事項 5 本文の導入：リスニング・ポイントを書いたワークシート (No. 1)

I. JOCVについて聞き取ったことを書きなさい。(解答欄省略)

1. どんな人が行くのですか。 2. どこへ行くのですか。
3. どんなことをするのですか。 4. いつから始まったのですか。
5. こんな活動があることを知っていましたか。
6. 将来このような活動をしたと思いますか。

II. 今日の授業について自己評価しなさい。○をつけなさい。

1. 現在分詞の形容詞的用法の文が理解でき、ワークシートを使って行動ができるようになりましたか。

[Very good ・ Good ・ So-so]

2. ペアワークで相手の目を見て積極的に取り組みましたか。

[Excellent ・ Very good ・ Good]

(参考)

自己評価の人数分布

37人中

1. Very good 11人

Good 13人

So-so 12人

無回答 1人

2. Excellent 10人

Very good 9人

Good 16人

(No) 1人

無回答 1人









学習事項 7 ペア練習：情報収集ワークシート (No. 2)

A: Excuse me, who is the -ing ...?

B: She (He) is _____. or (I'm sorry, I don't know.)

A: How do you spell it? / B:

A: Thank you. / B: You're welcome.

 ()	 ()	 ()	 Mr. Jackson
 ()	 Andy	 ()	 ()

(No. 2)と同じ言語材料を取り上げた教材例-1

< Listen and imagine what I am! >

Q1:

I am the animal living in Africa.
I am the animal having a long neck.
I am the animal having strong legs to run fast.
I am the animal having gorgeous feathers.
I am the animal having expensive skin. <Ostrich>

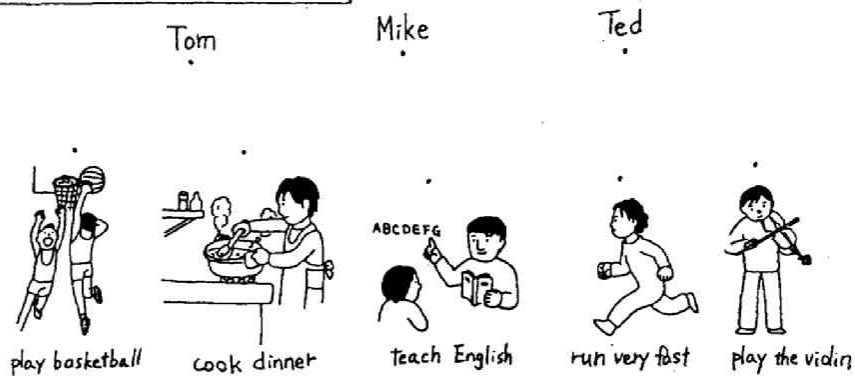
Q2:

I am the animal living in Asia.
I am the animal having a crown on my head.
I am the animal having brilliant feathers.
I am the animal loving green and blue. <Peacock>

(No.2)と同じ言語材料を取り上げた教材例-2

1. 先生の言うことは、どの人物を指していますか。線で結びなさい。

2. (以下省略)



3 成果と課題

第1分科会では、どうしたら大切な情報が聞き取れるのかということ、いわば「聞き取りのこつ」について研究をすすめてきた。何が聞き取るときの障害となっているかを考察し、その結果、音声の基本的特質を理解することが、聞き取る力を高めるのに有効であるという結論にいたった。

(1) 成果

音声の持つ基本的な特質を、普段の授業の中で系統的継続的に教えていくと、生徒はどのように聞き取るかという方法、いわば聞き取りのこつを意識しながら聞くようになった。例えば、I like it. [ai laikit] という文をそれだけで聞かせると、最初は何と知っているのか、迷っているが、すぐにほとんどの生徒が like と it の間に、音の連結があることに気づき聞き取ることができた。さらに弱形を教えたときには文を聞くときの大切な要素である内容語を聞き取れるようになり、その指導後は文脈との関連から内容語の聞き取りに注意をはらって聞くようになった。

普段の授業で「聞くこと」の言語活動のひとつとして、歌やビデオなど用いることが多い。音声の持つ基本的特質を学習した後は、「何を言っているかわかった」という生徒が増え、意欲・関心をもって「聞くこと」に取り組んだことがわかった。

(2) 課題

聞き取るこつを身に付けながら、さらに興味関心を高め意欲的なコミュニケーションを図るような教材、指導方法の研究、開発がこれからの課題の一つになると思われる。さらに聞き取る力を高める指導のなかで、その聞き取りの力をより具体的に評価する方法を考えていく必要があるだろう。

第2分科会

1 小主題設定の理由 「研究の仮説とねらい」

第2分科会では、意欲的にコミュニケーションを図る指導の工夫を、「話すこと」の指導を中心として考察した。仮説として、「興味、関心を持って話す場面の設定を工夫すれば、「話すこと」の活動が充実し、コミュニケーションをより積極的に行う意欲が育成されるであろう。」と考えた。

新学習指導要領では、「聞くこと」、「話すこと」がそれぞれ独立し充実した指導ができるよう配慮された。英語学習を始めたばかりの中学生にとって、相手の言うことを聞き取って自分の考えを話せた時に、コミュニケーションをより積極的に行う意欲が高まると考えられる。そこで本分科会では、特に「話すこと」の言語活動に着目して研究を進めた。

まず、授業の中で「話すこと」の活動がどの程度取り入れられているかを、44名の教員を対象にして調査した。その結果、クラスルーム・イングリッシュとペア・ワークを多くの教員が取り入れていることがわかった。日常の授業で実践できる、実際のコミュニケーションに近い形の「話すこと」の活動として、クラスルーム・イングリッシュの使用、ペア・ワーク、ロール・プレイ、スキット、スピーチなどが挙げられる。そのうち、ペア・ワークは「話すこと」の学習形態の中でも、教室内で生徒が興味、関心を持って話す場面を容易に設定できる活動である。そこで、本分科会では、ペア・ワークに焦点を定めて、その教材と指導法について考察した。従来のペア・ワークに興味、関心を持って話す場面を設定するための工夫をさらに加えることにより、ペア・ワークが実際のコミュニケーションにつながり、それが、コミュニケーションを図ろうとする生徒の意欲を高めるであろうと考えた。

次に、これまでのペア・ワークの課題を整理し、それぞれについての改善点を検討した。また、ペア・ワークのねらいとして、コミュニケーションの楽しさを味わうこと、語句や文に慣れること、発話量を増やすこと、の3点を定めた。ワークシートを作成するに当たり、目標とする言語材料の習得の工夫と同様に、生徒の興味を引く題材を取り上げることが重要だと考えた。中学生が興味・関心を示す話題の調査を約900名を対象に実施し、その調査結果をふまえてワークシートを作成した。さらにワークシートは、目標文の提示や練習のみにとらわれず、対話の自然な流れを重視し、その内容が段階的に発展するように工夫した。つまり、一つの言語材料や目標文について、段階別のワークシートを作成した。さらに、ワークシートに生徒の自己評価の欄を設けて、評価の観点を明示した。

2 研究内容

(1) 話題の調査

ア 目的：生徒の話題を調査し、理解することにより、生徒にとって身近で興味を持てるワークシート作成に役立てることをねらいとする。

イ 対象：中学1年生 473名，2年生 445名，計 918名（男 502名，女 416名）

ウ 方法：予備調査を実施後，質問項目を決定し，質問紙を作成し，各校にて実施した。

エ 内容と結果：各質問項目の中から，今一番多く話をしている話題を選択させた。さらに，そのとき話していることばや内容についても記入させた。

全体で10%に達した選択項目を以下のように表に示す。

質問項目	順位	選択項目	全体 %	男子 %	女子 %
Q1：朝、友達とあったとき、あいさつのあとに話していることは何ですか。	1	きのう何をしたか。	24.8	23.5	26.4
	2	きのうみたTV番組	20.6	16.5	25.5
	3	きょうの授業や予定	12.1	10.8	13.7
	4	遊びのこと	11.1	15.9	5.3
Q2：校内で、友達と話していることは何ですか。	1	遊びのこと	22.7	26.7	17.8
	2	TV番組	13.7	11.0	17.1
	3	ファミコンやTVゲーム	11.4	19.7	1.4
	4	CD・歌・音楽	11.0	9.4	13.0
Q3：学校の先生方と話していることは何ですか。	1	あまり話したことがない	36.8	38.6	34.6
	2	教科の連絡や準備	21.4	19.9	23.1
	3	部活動	14.2	12.5	16.1
Q4：放課後に話題にしていることは何ですか。	1	学校でのきょうの出来事	22.8	14.1	33.2
	2	遊びのこと	19.3	25.7	11.5
	3	帰宅後のこと	15.8	17.3	13.9
Q5：部活動のときに話していることは何ですか。	1	部活の練習内容	32.6	32.9	32.2
	2	あまり話したことがない	15.4	19.5	10.3
	3	大会や試合のこと	10.2	12.7	7.2

Q6：家庭で、親子で話すことは何ですか。	1	学校での出来事	42.0	32.9	53.1
	2	あまり話したことがない	11.0	13.7	7.7
	3	勉強・テスト・成績	10.0	11.6	8.2
Q7：兄弟姉妹で、話すことは何ですか。	1	欠点を言い合うこと	17.2	15.3	19.4
	2	TV番組	17.1	14.7	19.9
	2	あまり話したことがない	17.1	22.0	11.4
	4	学校での出来事	12.4	9.8	15.5

オ 考察：男子は、Q1・Q2・Q4から、校内で、遊びのことをよく話し、女子は、Q6・Q7から、家庭で学校の出来事を話すことが多い。特に、男女差が著しい項目は、Q2のファミコンやTVゲームで、女子が非常に少ない。また、Q3から、学校の先生とは、あまり話をしたがらないことが示されている。

(2) 「話すこと」の活動調査

ア 目的：「話すこと」の言語活動が、授業の中に、どの程度取り入れられているかを調べ、その現状を把握することをねらいとする。

イ 対象：東京都公立中学校英語科教員44名（男23名，女21名）

ウ 方法：質問紙調査による

エ 内容と結果：結果は%で示されている。

質問項目	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
話すことの活動	40.9	20.4	31.8	6.8	0.0
ペア・ワーク	18.2	36.3	31.8	9.1	4.5
スピーチ	2.3	2.3	38.6	43.1	13.6
教室英語	50.0	25.0	20.4	4.5	0.0

(ア) ほぼ毎回取り入れている
(イ) よく取り入れている
(ウ) ときどき取り入れている
(エ) ほとんど取り入れていない
(オ) まったく取り入れていない

オ 考察：「話すこと」の活動は、(ア) (イ) (ウ)をあわせると、93.1%に達し、ほとんどが取り入れている。その中で、教室英語が、(ア) (イ)をあわせると、75%に達し、一番多く取り入れられている。スピーチは(エ) (オ)をあわせると、56.7%に達し、取り入れられる機会が少ない。ペア・ワークは(ア)が、18%にすぎないが、(イ) (ウ)まで含めると、86.3%に達し、比較的多く取り入れられている。しかし、(エ) (オ)をあわせて13.6%が取り入れていないと答え、今後、指導方法の改善の工夫が望まれる。

(3) ペア・ワークの課題と改善点

ア これまでのペア・ワークの課題

- ① 特定の場面設定がなく、生徒の興味をひくような疑似コミュニケーション活動になりにくい。
- ② ペア・ワークの方法及びワークシートの内容の理解に時間をとりがちである。
- ③ ペアの組み合わせが、固定化しやすい。
- ④ ワークシートの内容が、パターン・プラクティスの延長となりやすい。
- ⑤ ペア・ワークの活動中に、安易に日本語を使ってしまう傾向がある。

イ ペア・ワークの改善点

- ① 生徒が興味を持っている話題を理解し、ワークシートの内容に工夫を加え作成する。さらに、対話の場面を必ず明記する。
- ② ワークシートの形式とペア・ワークの練習方法を定め、生徒が理解しやすいように工夫する。
- ③ ペアを固定する方法のほか、様々なペアでの活動ができるように工夫する。
- ④ 目標文だけでなく、対話の流れを重視して、会話の始め方、終わり方や聞き返しの言葉、同意の言葉、つなぎの言葉などを工夫する。
- ⑤ ペア・ワークを始める前に、ワークシートの対話文の練習を十分に行い、また必要に応じて、補助的な説明文をのせて、ペア・ワークがやりやすいようにする。

ウ ワークシート作成上の留意点

内容を段階的に発展させるよう留意して作成する。

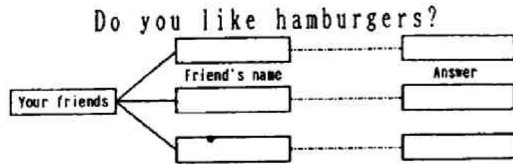
<ワークシートの作成例>

基本的な段階	→	発展的な段階
<その具体的な内容>		
• 目標文を中心とした対話 • Yes, Noで応答する疑問文	→ 選択肢のある疑問文	話の流れを重視した対話 疑問詞で始まる疑問文
<すべての段階の共通事項>		
• 会話の始め方、終わり方、聞き返しの言葉、同意の言葉、つなぎの言葉などを工夫する • 疑問文の応答は、2文以上とする。 • ワークシートに評価の観点をのせる。		

(4) ペア・ワークの指導実践事例

事例1 (1年生)

Pair Work 1年生の段階的指導事例<1> Date: _____



◆How to play this game: On Saturday afternoon.

A: Well, ...Are you hungry?
 B: Yes. I'm hungry, too.
 A: Do you like hamburgers?
 B: Pardon?
 A: Do you like hamburgers?
 B: Yes, I do. / No, I don't.
 A: Oh, I see.

◆ Vocabulary
 ア.hamburgers イ.hot dogs ウ.sandwiches エ.pizza オ.fried chicken

Points
 Practice points: () Your partner's name: _____
 Game points : ()
 Total points : ()
 ◆How many points does your partner have? : ()
 Did you win? YES NO

評価
 1.積極的に会話をしようとしたか? A B C
 2.アイ・コンタクトをして会話ができましたか? A B C
 3.今日のkey sentenceを言えるようになりましたか? A B C
 4.相手の顔・見守り態度をよびよりましたか? A B C
 <評価のやりかた> A-1枚だけ B-2枚だけ C-3枚以上

Pair Work 1年生の段階的指導事例<2> Date: _____



◆How to play this game: On Saturday afternoon.

A: Well, ...Do you like hamburgers?
 B: Pardon me?
 A: Do you like hamburgers?
 B: So so.
 A: What foods do you like?
 B: I like pizza.
 A: OK. Let's have big pizza.
 B: That's a good idea!

◆ Vocabulary
 ア.hamburgers イ.hot dogs ウ.sandwiches エ.pizza オ.fried chicken

Points
 Practice points: () Your partner's name: _____
 Game points : ()
 Total points : ()
 ◆How many points does your partner have? : ()

評価
 1.積極的に会話をしようとしたか? A B C
 2.アイ・コンタクトをして会話ができましたか? A B C
 3.今日のkey sentenceを言えるようになりましたか? A B C
 4.相手の顔・見守り態度をよびよりましたか? A B C
 <評価のやりかた> A-1枚だけ B-2枚だけ C-3枚以上

ア ワークシートのねらい

- 一般動詞likeを使った疑問文に慣れる。

イ 留意点

- 状況設定を土曜日の放課後、友達とファーストフード店に行こうと相談している対話文を中心として日常生活で使う表現を含んだ内容とした。(「段階1・2」共通)
- 「段階1」では、会話を始める際の言葉や簡単な聞き返しの言葉・同意の言葉を取り入れた。「段階2」では、Yes, No以外の応答や、疑問詞のある疑問文、さらに提案の表現を加えた対話のやりとりを取り入れた。
- 「段階1・2」のペア・ワークの方法は固定ペアによる2分間の練習時間の確保とさらにオープン・ペアによる3～4分間の情報交換活動を行うようにした。
- 評価は、観点を(1)積極的に取り組もうとする態度、(2)聞くこと・話すことの態度、(3)学習の成果、(4)会話の始め方・聞き返しの言葉・同意の言葉・繰り返しの言葉などの表現の学習、の4項目を設定し、方法は自己評価とした。

ウ 考察

話題の調査の結果を活用し、生徒の生活に現れるような場面・状況設定のもとでの対話内容を取り入れたことにより、以前のペア・ワークよりも意欲的に取り組めるようになった。また、評価項目を具体的に示すことにより、アイ・コンタクトをした対話が可能になった。ペア・ワーク以外の活動の場面でも、ワークシートに段階的に取り入れた目標文や聞き返しの言葉、同意の言葉などの表現が教師と生徒との対話で使われるようになった。

事例 2 (2年生)

Pair Worksheet (段階 1) Pattern A

*下の対話文を使って、自分のしたいことを書いてみよう。

(場面) 学校に登校してきた友達と放課後にすることを相談している。

A: Hi. How are you?
 B: Very fine. And you?
 A: I'm O. K.
 Well, are you free after school?
 B: Yes. I'm free.
 Do you have any ideas?
 A: Sure. I want to play soccer.
 B: O. K. Let's play soccer.

*下線をかえて、練習をします。

Vocabulary

play tennis
play basketball
study English
go shopping
go to the movies

*下の3つの項目で自己評価をしてみよう。

この練習への取り組み Excellent Very good Good Next time

自分の役割への取り組み Excellent Very good Good Next time

相手の言うことが聞き取れたか Excellent Very good Good Next time

英語を勉強したんだ。という人はミズイナト
 と思ふ。

どうも、あつて

A組 香氏名



Pair Worksheet (段階 2) Pattern C

*下の対話文を使って、自分のしたいことを書いてみよう。

(場面) 学校に登校してきた友達と放課後にすることを相談している。

A: Hi, (名前). How are you?
 B: Tired. I watched TV late last night.
 And you, (名前)?
 A: I'm great.
 Well, are you free after school?
 B: Pardon?
 A: Are you free after school?
 B: Yes. What do you want to do?
 A: I want to play soccer.
 B: Oh, no. I don't want to play soccer.
 I want to play basketball.
 A: All right. Let's play basketball.

*下線をかえて、練習をします。

Vocabulary

play TV game
play tennis
go bowling
go shopping
go for pizza
go to the movies
study math in the library

*下の3つの項目で自己評価をしてみよう。

この練習への取り組み Excellent Very good Good Next time

自分の役割への取り組み Excellent Very good Good Next time

相手の言うことが聞き取れたか Excellent Very good Good Next time

対話の内容改善に意見があればどうぞ。



A組 香氏名

ア ワークシートのねらい

- ・「want to 動詞の原形 (不定詞の名詞的用法)」の形を含んだ文に慣れる。

イ 留意点

- ・場面設定を学校、状況設定を友人同士の朝の対話として、日常生活で使う表現を含んだ内容にした。「段階1・2共通」

- ・段階1では、安心して練習できるように日常の固定ペアで、段階2では、名前を呼び合うことに新鮮さを持たせるために、クラス全体のオープン・ペアで行うこととした。
- ・段階2では、練習形態を変えるために、名前を呼ぶ内容にした。またwhatで始まる疑問文ばかりでなく、否定文を加えて目標文の練習を発展させた。さらに聞き返しの表現を加えることによって、対話の流れに注意し、言い直しの文を言うようにさせた。
- ・評価の観点を(1)活動への興味・関心、(2)表現の能力、(3)理解の能力、の3点に設定し、方法は自己評価とした。また生徒の意見欄を設けて、生徒がより主体的に活動するように工夫した。
- ・対話の文章は、ALTにアドバイスを受けた。

ウ 考察

- ・自己評価を比較してみると、段階2では各項目共に段階1よりも上位の評価をした生徒が増えた。内容の発展が、生徒の興味・関心を高め、意欲的な活動を促したと思われる。
- ・生徒の意見では、語彙を充実してほしいというものが最も多かった。

3 成果と課題

まず、ワークシートの内容を改善するにあたって、生徒の話題の調査を実施し、興味がある話題の内容を知ることができた。また、「話すこと」の活動がどの程度授業に取り入れられているのかを調査し、現状の把握と指導の改善に役立てた。さらに、ペア・ワークの課題と改善点を明らかにし、それらをふまえて実践を試みた。

事例1では、段階的に取り上げた内容のなかで扱う目標文、聞き返しの言葉、同意の言葉などの表現が、教師と生徒のinteractionで使われるようになった。事例2では、段階が進むにつれて理解や表現の能力が向上した。学習の遅れがちな生徒も、身近な話題を取り上げることで話題に興味をもち、ペア・ワークに意欲的に取り組めた。以上の結果から、ペア・ワークを通して、「興味・関心をもって話す場面の設定を工夫すれば「話すこと」の活動が充実し、コミュニケーションをより積極的に行なう意欲が育成されるであろう」という仮説が、ほぼ検証された。

今後の課題として、評価の項目や方法などについて、検討が必要になるだろう。また、ペア・ワークばかりでなく、スピーチなどの他の「話すこと」の言語活動を充実させるよう研究をさらに深めていきたい。

第3分科会

1 小主題設定の理由「研究の仮説とねらい」

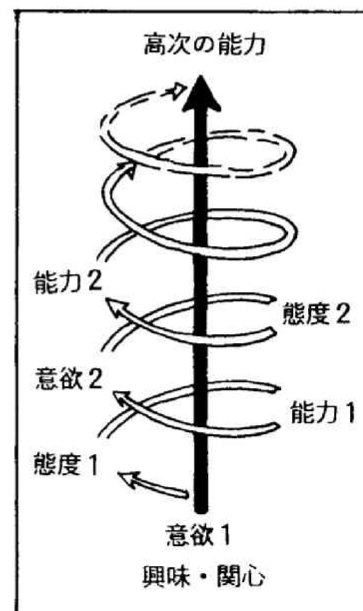
第3分科会では、『教育機器を効果的に活用した指導の工夫』という分科会テーマを設け、「教育機器を効果的に活用すれば、コミュニケーションに対する興味・関心が高まるであろう。」という仮説のもとに、研究を進めてきた。

教育機器は、本来、主たる言語活動を補助するための手段として用いられるものであるが、これらを効果的に活用することにより、コミュニケーションに対する興味・関心を高め、意欲を育て、その結果としてコミュニケーション能力を高めることができるのではないかと考えた。このことは、新学習指導要領の、第3 指導計画の作成と内容の取扱い 5で、「言語活動を一層活発にするため、教育機器の有効な活用やネイティブ・スピーカーの協力を得ることなどに留意するものとする。」とうたっていることでも、その必要性が理解できる。教育機器にはテープレコーダーをはじめ、OHPやCD・ビデオディスクのディスク類などがあるが、コミュニケーションを前提とした機器の活用方法としては、

(1)ビデオを活用した方法 (2)LL機器を活用した方法 (3)パソコンを活用した方法などが考えられる。これらをそれぞれの特性を生かして用いていくことで、上記のねらいを達成することとした。

これらの教育機器を活用して意欲的なコミュニケーションを図るためには、コミュニケーションの目的の1つである、information gapを埋めることに加えて、パソコン通信による国際交流、つまり異文化理解を深め、国際理解を深めるコミュニケーション、「異文化間コミュニケーション」をも目指すことを目的とする。これらの目的を達成するための指導の工夫として、興味・関心を持つ→意欲¹を持つ→積極的な態度¹を形成する→能力¹として身につける→新たな意欲²…→新たな態度²→新たな能力²…→、というように循環させながら高次の能力を育てていくこととした。〔ここでは、“スパイラル・エフェクト”（らせん効果）と呼ぶこととした。〕

(右図参照)



2 研究内容

(1) ビデオ教材での学習

ア ‘対話文完成’ (Complete the Dialog.)

ある対話文で、いくつかの部分をミュート（音を消す）にし、そこにどんな文を入れたらよいか、生徒が考え、それぞれ発表する。

イ ‘ストップ&リリース’ (Guess How the Scene Goes.)

‘対話文完成’の応用。スキットや物語の途中でいったんテープを止め、次の場面で会話がどのように発展するかを生徒が考え、発表する。

ウ ‘インタビュー&スピーチ’ (The Interview & Speech)

- ① あらかじめ質問事項を入れておき、それに対して生徒が答える。
- ② インタビュアー役の生徒が他の生徒に質問する。そしてそれらをビデオに収めたものを流し、それぞれ批評し合う。
- ③ あるテーマについて数人の生徒がスピーチしたものをビデオに収め、その内容についてT-FテストやQ&Aにより確認する。

(2) LL機器活用の学習

① LL機器活用の学習

LL機器の特性として次の4つがあげられる。

ア テープを使って、よりクリアーな音で、何度でも繰り返して聞くことができる。

イ テープに録音することにより、自分の発音をモデルと比べ、矯正することが繰り返してできる。

ウ ヘッドセットを使って不特定多数の生徒間で対話練習をすることができる。

エ 教師が個々の生徒をモニターすることにより、他の生徒の活動を妨げることなく、個別に指導できる。

これらの特性をもつLLを活用することによって、生徒は学習に対する興味・関心を高め意欲的にコミュニケーション活動に取り組むことができると考えた。授業においてはこれらの特性を生かすために次のような活動を行った。

ア コンピュータによってアランダムに組まれたペアが、ヘッドセットをとおして学習した文を用いながら文型練習などを行う対話練習。主に「話すこと」と「聞くこと」を中心としたコミュニケーション活動を行う。

イ 教科書準拠の音声テープの文型練習の部分や教科書準拠のLL用テープ及びワークシー

- トを用いる文型練習。絵を見て英語で表現することを中心とした言語活動を行う。
- ウ 教科書準拠の音声テープの本文の部分を用いて行う音読練習。モデルの発音や読み方を模倣し、発音矯正や読み方の練習を行う。
- エ 用意された教材の中から、それぞれの生徒が自分の興味・能力に応じて学習内容を選択して行うコース別学習。英語検定コース・ヒアリングコースは「聞くこと」を中心としたコミュニケーション活動、教科書コース・LLコースは「聞くこと」及び「話すこと」を中心としたコミュニケーション活動である。

② アンケート調査

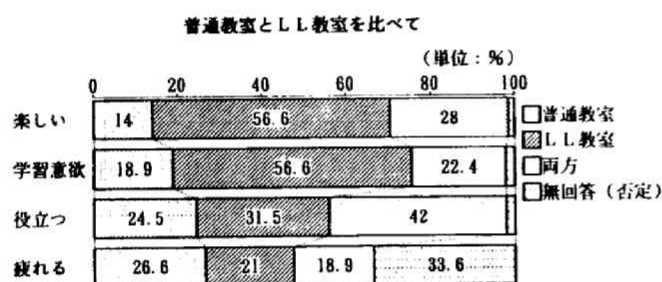
ア 調査のねらい

LL機器を活用した授業に対する生徒の考えを知るとともに、LLの授業に対する生徒の興味や学習活動への意欲の傾向を調査することにより、仮説の裏付けを試みた。

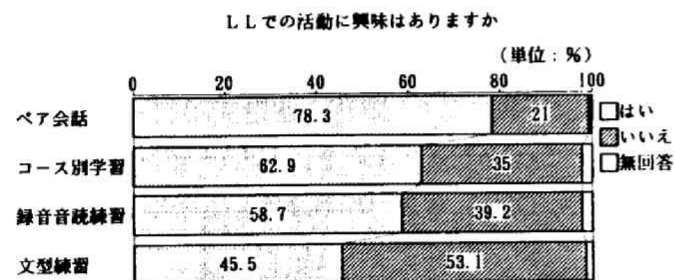
イ 調査の時期と対象及び人数

調査：平成5年9月 対象：第1学年生徒143名

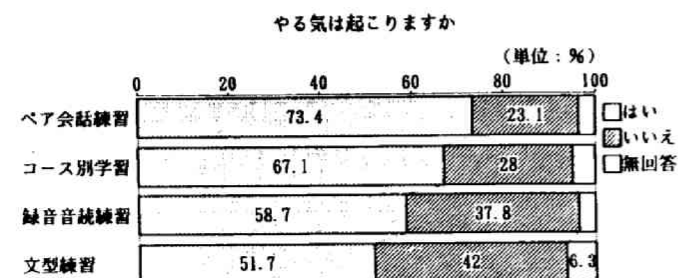
ウ 調査の項目（抜粋）と結果・考察



生徒の半数以上がLLの授業を楽しく感じ、学習意欲がわくと答えている。「教室と両方」と答えた生徒を合わせると8割前後の生徒がLLの授業に対して肯定的な考えや姿勢を示しているといえる。



生徒はコンピュータでアトランダムに決められるペアの対話練習や自分で教材を選択するコース別学習、教科書の本文を録音して練習する活動に興味をもっていることが分かる。



意欲についての質問に対してはそれぞれの活動に、半数以上の生徒が意欲的に取り組んでいるという結果が出た。

(3) パソコン活用の学習

英語の授業でパソコンを使用する場合、次のような活用のしかたが考えられる。まずワープロソフトや図形処理ソフトを利用して、スピーチや英作文などの自己表現の原稿や作品の清書があげられる。これは、手書きでも同じような作業ができるが、紙と鉛筆だけでは書いて存在するだけである。パソコンは鉛筆、消しゴム、タイプライター、はさみ、糊、コピー機などの役目をしてくれる。さらに外部記憶装置であるディスクを利用することにより、かなりまとまった量の文を系統立てて保存することも可能である。またパソコン通信を利用することにより、パソコンは「郵便局」としての働きもする。

「はじめてのCAI」(枝澤康代)によると、パソコンを利用した英作文指導(CACI: computer-assisted composition instruction)の有用性を下書き、本書き、書き直しの各段階において「生産的でない作業」つまり、書き損じた部分を消しゴムで消して書き直す労力から開放されるとしている。

そのほか、個別学習として、各自の理解に応じた問題に取り組む教材も考えられる。また音声扱える機種の場合、従来のテープレコーダーやCDよりも進んだ活用方法が考えられる。

(4) 指導実践事例

第3分科会では、パソコンを活用した授業で、手紙文をパソコンで清書し、パソコン通信で相手に送ることを中心に研究をすすめた。通常、パソコン通信は、相手のコンピュータに直接つないでデータを交換したり、パソコンネットを利用してメールの交換をすることができる。通信で送れるのは文字が基本だが、設定次第では写真などの画像データや、音声のデータを送ることも可能となる。

現在の中学生にとってパソコンの存在は、比較的身近なものである。したがって授業でパソコンを扱う上で、生徒側の抵抗感はほとんど見られなかった。生徒が授業中にパソコンを操作するに当たっては、機械の取り扱い方法のほか、ソフトウェアの著作権の保護についても指導した。

授業にパソコンを取り入れることにより、生徒の英語学習に対する興味・関心を高めることができた。授業後のアンケートでも「はじめは難しかったが、すぐに慣れた」「楽しかった」「またやりたい」という記述が目立った。実際パソコンを活用した授業では、生徒たちは生き生きとして学習に取り組む姿勢をみせた。このことにより、第3分科会の仮説は実証された。

〔指導事例・第1学年〕

時間	学習事項	生徒の活動	教師の働きかけ	指導上の留意点	評価
あいさつ 2 2	あいさつ 日付	Good afternoon, Mr. Yamazaki. I'm fine, thank you. And you? It's Thursday. It's October 28, 1993.	Good afternoon, everyone. How are you? I'm fine, too. Thank you. What day is it today? What's the date today?	元気にあいさつする 日付を板書しながら復唱させる	・声が出ているか ・正確に表現できているか
復習 1 10	ワードビンゴ	ワードビンゴのマスをチェックする	ビンゴのマスに相当する単語を発表する。終了後は前後の復習となる単語の練習をする	英語学習の雰囲気盛り上げる	意欲的に参加できたか
導入 3 13	個人フロッピーディスクの配布とワープロソフトの立ち上げ	自分のディスクを受け取り、パソコンに電源を入れてワープロソフトを立ち上げる。前時までに完成した手紙文を呼び出す	個人ディスク配布するように係の生徒に指示する。作業について画面を通して説明する。	机間指導を通して生徒の手助けをする。	協力してできたか
展開 1 7 20	手紙文の発表	自分の手紙文を発表する2～3名程度	発表する生徒の作文を他の生徒の画面に送る。	みんなに聞こえるようにさせる。	わかりやすく発表できたか
展開 2 15 35	パソコン通信実演	チャットの様子を見学する。	代表生徒の手紙文をパソコン通信のチャットでMr. Robert Hellerと行き、生徒に画面を通して見学させる。	画面に表れる英文を読ませる。	意欲的に参加したか
展開 3 3 38	手紙の返事	パソコン通信でALTのMr. Guzmanより届いた返事を読む。	手紙はALTとパソコンネット（よみネット、ニフティサーブ）にパソコン通信で送付済み。現在返事を待っていることを説明。	画面に表れた文を読めるよう時間を区切る。	パソコン通信に興味を持ったか
展開 4 10 48	郵送するカードの完成	手紙文をプリントアウトし郵送するカードに貼り付け完成する。	学習の手順を説明する。	机間指導して作業の進行を見守る	意欲的に取り組めたか
まとめ 2 50	作品の提出 あいさつ	完成したカードを提出する。 See you later.	カードを提出させる。 That's all for today. See you later.	元気にあいさつする	元気にあいさつできたか

3 成果との課題

(1) 成果

- ア 普通教室の授業と比べて、機器の習熟度の程度に応じて生徒が興味・関心をもって意欲的に授業に取り組むことができた。
- イ パソコンやLIS等の機器に対して、生徒自身がそれらを操作することで主体的に学習しようとする態度を高めることができた。
- ウ 英文を書く場合、これまでの手書きでは、書き直しが大変であった。しかしパソコンによるワープロ機能を使用することにより、書き直しが容易となったため、生徒は間違いを気にせずに、自由に文をつくることができるようになった。また、各自が作成した文書はフロッピーに保存できるので、何回も読み直し、書き換えることにより、さらに英文の表現力が豊かになった。
- エ パソコン通信を活用することにより、コミュニケーションを意欲的に図ろうとする態度が育成された。
- オ パソコンによるドリルワークは、既習の文法事項などの反復練習において効果的であった。自分の答に対する結果がすぐにわかるため、生徒は意欲的にドリルに取り組むようになった。

(2) 今後の課題

- ア アプリケーション・ソフトがフロッピーベースのため、ソフト管理が煩雑である。生徒用ハードディスクが必要である。
- イ 学校におけるパソコン通信のための電話回線の確保が難しい。ネット加入料の問題。
- ウ 教材ソフトの開発に多くの時間をとられる。
- エ 1人に対して1台のパソコンが必要である。現在は2人で1台のパソコンを使っているため、1人が待たされてしまい、学習効率が落ちてしまう。
- オ 興味・関心を継続するために、教材研究に努力しなければならない。
- カ 機器を介するコミュニケーションから、人間同士の会話によるコミュニケーションへ発展させることの問題。
- キ 今後、教職員のパソコン研修体制を確立し、全校規模で取り組むことが必要である。

IV まとめと今後の課題

本研究は、「意欲的にコミュニケーションをはかる指導の工夫」を三つの分科会においてそれぞれ仮説を立てて研究したものである。

第1分科会では、「言語活動」の4領域のひとつである「聞くこと」のための学習活動を考えた。生徒は、日本語と英語の音声との違いについて学習していく中で、聞くことになれてきたという感想を出すようになった。「何を言っているのかがわかる」ということである。聞いたことが分かるということで、授業に活気が出るようになり、聞くこともコミュニケーションのひとつであることが実感された。

第2分科会では、「話すこと」の活動に着目し、ペア・ワークに焦点を定めて研究を進めた。これまでのペア・ワークの課題をふまえ、ワークシートやその指導法について考察した。中学生の話題の調査に基づいて、興味、関心のある題材を選定し、また、内容を段階的に発展させる工夫により、ペア・ワークを実際のコミュニケーションに近づけた。これまでの実践を通して、生徒の話そうとする意欲が高まり、仮説が検証された。今後さらに、スピーチなど他の「話すこと」の活動について、その評価方法も含めて、研究を深めていきたい。

第3分科会では、パソコンやLIL機器などの教育機器を効果的に活用することで、生徒のコミュニケーションに対する意欲・関心を高める研究を行なった。こうした教育機器を活用することにより、コミュニケーション能力の基礎となる文法や慣用的表現などについて、自発的、かつ意欲的に学習するようになった。さらに生徒は、パソコン通信を通して他の人々とコミュニケーションを図ることができる事実を知り、電子メールなどを使って、積極的に言語活動に取り組むようになった。

この研究を通して研究員の私達が感じたことは、教師が成長すると生徒も成長することである。あたりまえのことだが、授業を工夫すると生徒は生き生きとしてくる。つまり意欲と関心を生徒が持つためには、それを意識した工夫が必要とされる。その工夫が、この一年間の研究であった。

ヒアリング、ペアワーク、パソコンやLIL機器などの活用はどれをとっても生徒の意欲を高めるのに有効であった。これからも「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域をバランスよく取り入れていきたい。

今後は、生徒のコミュニケーションに対する意欲・関心を高める指導法の研究を一層すすめるとともに、コミュニケーションの目的についても研究を重ねていきたい。